

# まちの記憶

色鉛筆で描いた四街道

第三集

絵・文 福田芳生

Yotsukaido City



四街道市

# まちの記憶

色鉛筆で描いた四街道  
第三集

絵・文 福田芳生

四街道市

皆様におかれましては、日頃より市政に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

令和2年度、4年度に発行され、市民の皆様より大変ご好評をいただきました「まちの記憶」の第三集を発行することとなりましたので一言ご挨拶申し上げます。

「まちの記憶」は市内在住の色鉛筆画家である福田芳生先生が市内のかつての風景を色鉛筆で鮮やかに描き、その場所にまつわるエピソードを添えた温かい作品となっております。市内各所の自然や街並み、日常のひとこまが、優しい色彩と繊細な筆致で表現されており、私たちのまちの魅力を改めて感じさせてくれます。

作品の中には、皆さんがよく覚えている景色がいくつもあるのではないのでしょうか。

今後も、本市の豊かな風景と文化、そしてかけがえのない日常が、多くの人々の心に残り、ふるさと四街道を次世代へと伝えていくために、様々な形で発信を継続していきます。

本冊子が、多くの皆様にとって、四街道の新たな魅力を発見するきっかけとなり、ふるさとへの愛着や誇りを育む一助となれば幸いです。

四街道市長 鈴木 陽介



各ページに色鉛筆画で描かれた場所が参照できるQRコードを付しました。スマートフォンなどの端末で読み取ってご覧ください。

## 四街道を描く

こんにちは、色鉛筆画家の福田芳生（ふくだよしお 84歳）です。

自転車で市内を巡っていると、赤や白の美しい花が軒先に顔を出しています。こちらの心まで和んで来ます。これを平和って言うんでしょう。そして、緑の多いことに気付きます。

毎日机に向かって、絵を描いていると、ひどく目が疲れます。それを癒してくれるのが緑です。緑豊かな街は、人の心を豊かにします。

これ本当ですね。「おー、これだ」と心に響いた景色をカメラに収めます。その場所に何度も出掛けて、細かくスケッチします。後はHBの鉛筆で精密に下絵を描きます。これは絵の命ですから、決して手を抜いてはいけません。

この間まであった昭和の古い家は、姿を消したんだな、という具合に、街の様子は時々刻々と変化していきます。街は生きているんですね。以前撮影した写真の中に、消え失せた建物を見つけた時、「この家だ、撮っておいて良かったな」とホッとします。

鹿渡地区の元桜井醤油屋さんの近くに、小沢酒店さんがあります。昭和27年(1952年)に開店したそうです。今から71年前ということになります。そこに、戦前の立派な洋館がありました。私は何気なく、それをカメラに収めていました。

この洋館は間もなく姿を消し、平成の建物に替わりました。件の洋館の色鉛筆画を、御主人に見せたところ、「おー、これ私の家の洋館じゃないか」、「実は一枚も写真が無いんだ」、「画集が出るのを今から楽しみにしています」と、目に涙を浮かべて言うではありませんか。

四街道の歴史研究のために、市内をバスで巡った時のことです。和風の建物と洋館の組み合わせは、四街道独特のもので、誇るべき文化ですと、講師の方が説明しました。実は小生、その話を聞くまで、全く気にしていなかったんです。木村家の洋館しか頭に無かったんですね。その絵は、まちの記憶第二集の表紙を飾ったので、御存知の方も多いと思います。

まちの記憶第三集では、消え去った建物や樹木を中心に据え、34点の色鉛筆画を掲載しました。画集を開いた皆さんは、懐かしい思い出に、胸が一杯になりますよ。

福田芳生

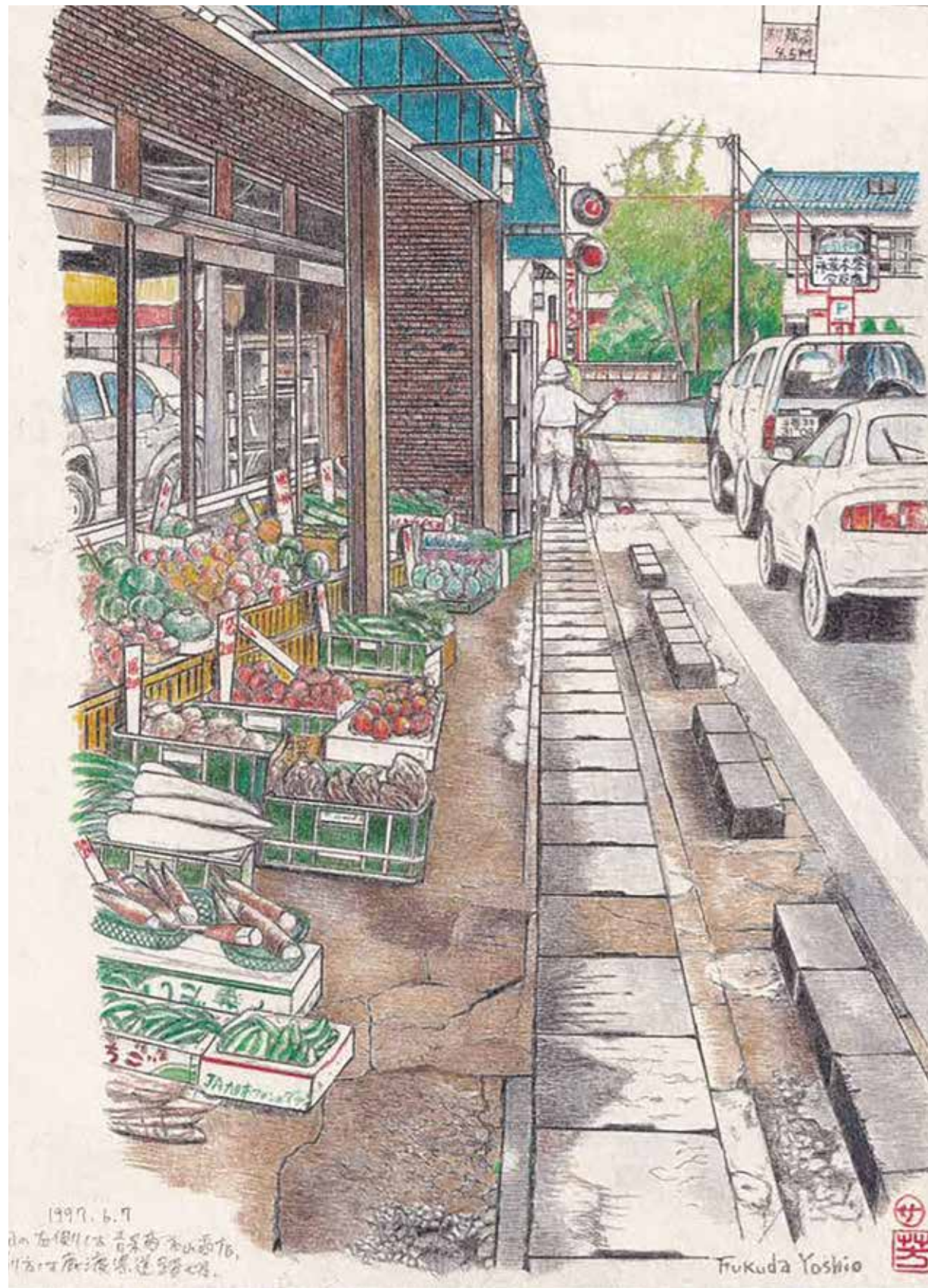
## 四街道公民館の土手にそびえるムクノキ

2005年5月中旬の頃

高い土手に囲まれた四街道公民館の敷地は、かつて陸軍野戦重砲兵第四連隊の将校集会所があったところだ。戦後、公民館が新設された。正門側の土手に沿って左に進むと、愛国学園大学のグラウンド横に出る。

この土手の中央に、深い縦じわが特徴のムクノキが見える。四街道では数少ないが、関西地方に広く分布する。緻密な材質なので、椅子やテーブルなどの家具に使用されるという。左側のY字型の樹木は、シイの大木。広く市民に親しまれている景観。



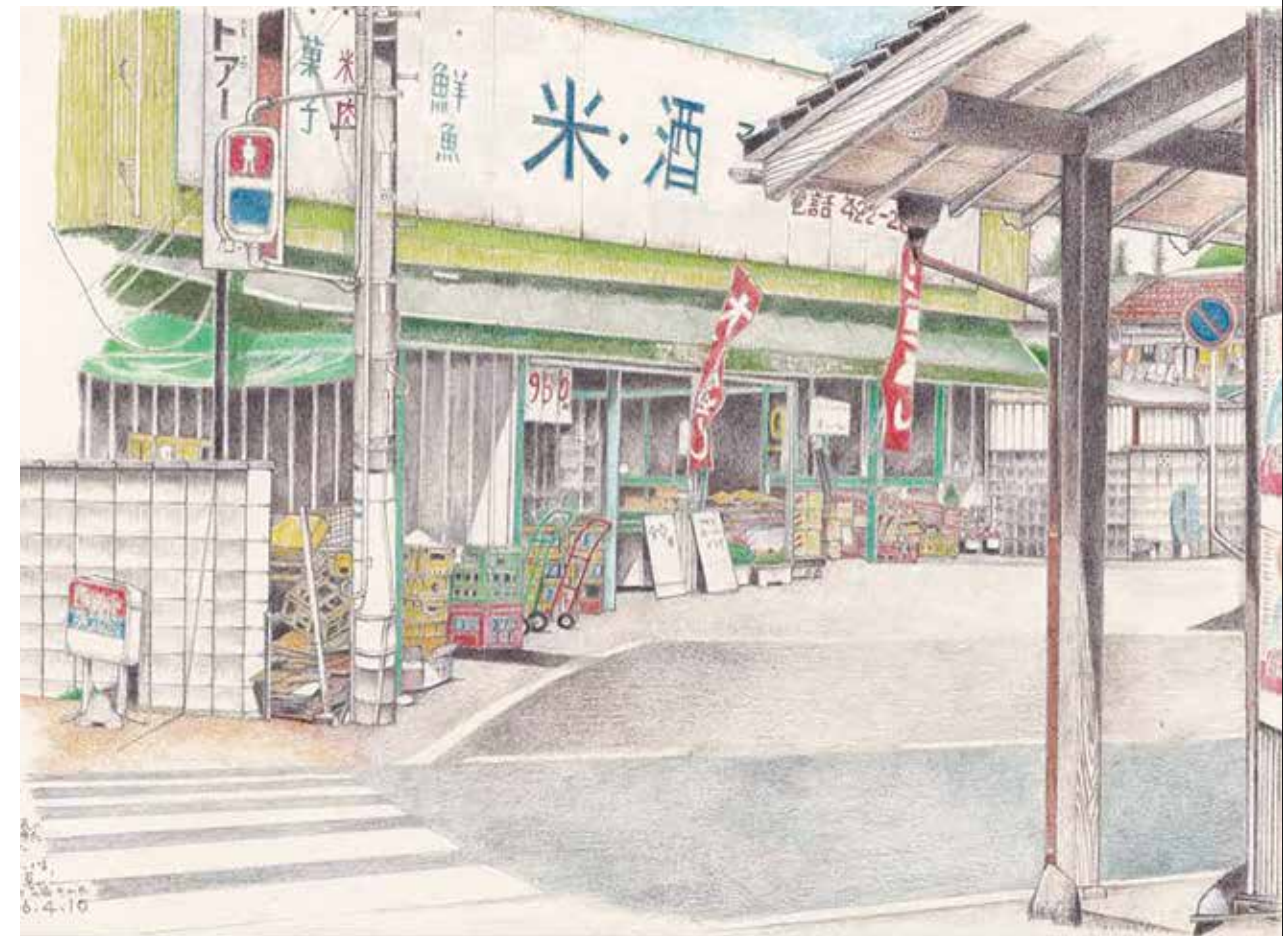


鹿渡県道踏切際（左側）の石山商店

1997年6月上旬の頃



石橋自転車屋さんの向かい側に、石山商店さんがある。季節の野菜や果物を店頭に並べて販売している。品質が良いので、客足が絶えない。御夫婦共々、市の発展に尽力している。踏切の右前方に、中華料理の永華楼飯店が見える。



食品スーパーマセさん

2006年4月中旬の頃



洋服や学生服の特約店“江戸子屋”さんの右隣りに、食品スーパーマセさんがあった。いつも店の右端で、生花を販売していた。傍に水道の蛇口が見える。愛犬が、ここで水ももらって、うれしそうに飲んだものだ。30年近く市民に愛されて来た店だった。このスーパーも、2006年暮れに取り壊され、跡地にアパートが建った。

図右手前は、金親ピーナツ屋さんの倉庫。昭和初期（今から90年以上昔）の建物。

## 市立四街道小学校近くの五十嵐文具店さん

1998年2月下旬の頃



市立四街道小学校裏門前の小道を左に進むと、五十嵐（いがらし）文具店さんの前が出る。立派な3階建てのビルがそれだ。筆者が小学生の頃（1950年当時）は、目立たない店構えだった。今から70年以上昔になるが、母親と一緒にこの店を訪れ、小松崎茂画伯によるSF劇画の絵本を購入したことを覚えている。美しいカラー印刷が特徴だった。文房具のほかに、当時の雑誌も店頭に並んでいた懐かしい店だ。図右側の石垣は元栗山医院さんの敷地



## そはら整形外科医院さんの脇にあったケヤキの大木

2005年8月末の頃

市街地から鹿渡本村に行くには、このケヤキの横を通らねばならない。いつも緑の葉を一杯に繁らせていた。夏には、この木陰で缶ジュースを飲みながら一休みしたものだ。

樹齢200年を越す大木だった。2016年春に切り倒されてしまった。幕末の頃、半里（約2キロメートル）ごとに植えられたという。いわゆる里程標だ。

現在、この切株のそばで若木がすくすくと育っている。図右側の丈の高い生垣は姿を消し、近くに保育園ができた。





## 四街道市津之守通りのケヤキの大木

2001年11月末の頃

図左のケヤキの大木は見事に紅葉し、落葉が地面を覆っている。このケヤキは、元吉田医院さんの敷地にあったものだ。最近、家やケヤキは姿を消した。跡地は売りに出され、次々と家が建てられた。青いトタン塀の隣は、美容院“銀鈴”（ギンレイ）さん。道路右に、バレエ教室や藤川理髪店さんが見える。現在、理髪店さんは閉店している。道路の遙か前方に、歩道橋をはっきりと認めることができる。これも間もなく撤去されてしまった。



## 姿を消した三河屋ガソリンスタンドさん

2005年9月初旬の頃



現在、エノキ通りの和良比踏切に近い葬儀場ライフケアさんのある場所は、以前三河屋ガソリンスタンドさんのあったところだ。外壁の大きな落書きが目をつけた。左の道路側に大きなタイヤが飾ってあった。2台の給油装置が見える。ロープを張ってあるのは、この日が休みに当たっているからだろう。

落書きの背後にある平成の家は、元錦織畳屋さんの住居。左前方に京染めの大網染物店さんが見える。



## 昭和の福島お菓子屋さんの店先

1960年(昭和35年)7月中旬の頃

現在、福島お菓子屋さんは、JR四街道駅北口のえのき通り側に店を開いている。店内に和菓子やケーキなど上質な商品を並べている。以前、店は裏側の駐車場のある通りにあった。

昭和の時代は、コッペパンや食パンの販売が主流だった。カナダ産の小麦粉を使用しているという。ある時子どもが、コッペパンを指さして「ノージャム付けて」と言ったそう。町人は「福島パン屋さん」と呼んだものだ。昭和35年夏には、アイスクリームの販売を始めたという。この付近には、魚角(うおかく)という魚屋さんもあった。懐かしい通りだ。





日本料理のレストラン白銀  
(しろがね) さん

2004年3月中旬の頃

石山商店さん前の鹿渡県道踏切を渡って、左側を見ると、3階建ての日本料理のレストラン白銀(しろがね)さんが目に入る。このレストランで宴会や同窓会を開いたという市民が大勢いる。ここのウナギ弁当は大変良い味だった。2011年3月11日の東日本大震災により、店は大きな被害を被った。建物は取り壊され、跡地にコンビニが開店した。





## 四街道駅南口広場の駐車場

2005年10月末の頃



今から20年ほど前、四街道駅南口広場には、車が雑然と停車していた。いつ車が出て来るか分からないので、道路を渡る時、ひどく緊張したものだ。現在では、市の努力によってすっかり整備され、バスターミナルとして機能している。駐車場背後の木立ちや民家は姿を消し、跡地にアパートが次々と建てられた。現存しているのは、図中央の2階建ての家だけになった。これも懐かしい四街道の風景。



## 静かな市郊外の坂道

2005年5月末の頃



四街道2丁目25番地付近。大通りから図前方の畔田（あぜた）踏切を越えると、裏通りは緩い下り坂になる。左側のブロック塀上側の赤い花はバラ。この時期、バラの花盛りだ。その下に側溝が走っている。夜間、人や自転車が転落して負傷することがあった。大変危険なので、現在では頑丈なコンクリート製の蓋で覆われている。図はいかにも四街道らしい、広く市民に愛されている坂道。



ジーンズ専門店  
ザ・ビーンツリー (豆の木) さん  
2007年3月下旬の頃

津之守通りの熊野落花生店さんの右隣りに、ザ・ビーンツリー (豆の木) さんというジーンズ専門店があった。トマホークを手にした怒れるインディアンの若い戦士が看板だった。遠くからでも目立ったものだ。店の前にいつもジーンズを展示し、カウボーイハットの若人が椅子に座った様子など、米国西部の雰囲気を醸していた。玄関の扉上方に、野牛アメリカバイソンの黒褐色の毛皮と角が掲げられ、これも看板の1つだった。御主人がアメリカに渡って、直接買い付けたという。2014年、御主人が他界されたため、閉店した。その後、すっかり模様替えし、2020年春に“憩い処三陸”さんという飲食店になった。



## 高台にそびえる戦国時代の城跡と桜の大木

2006年 6月上旬の頃



JR 四街道駅南口をすぎると、大きな坂道に出る。それを下って、御屋敷橋へ向かう途中、道路右側に高台が見えて来る。それは戦国時代の堀込城の跡だ。現在、城趾公園として整備され、市民に広く開放されている。

春になると桜が満開となり、美しい眺めだ。高台外壁は、コンクリート製のブロックで固められ、土砂崩れを防いでいる。高台下の坂道両脇にツツジが植えられている。5月に入ると赤い花が咲き始め、道行く市民の目を楽しませてくれる。遠くに市街地が望まれる。



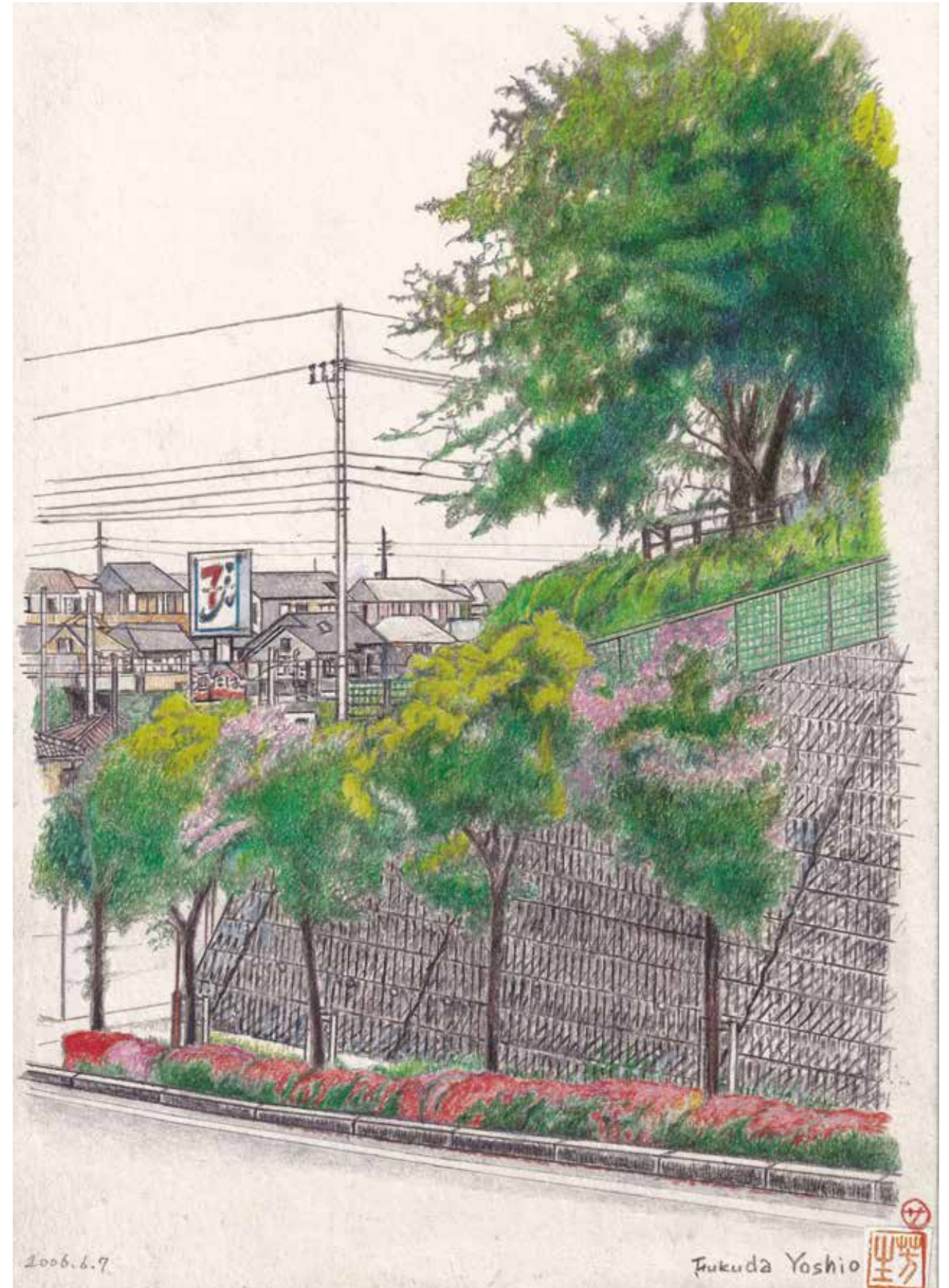
## 姿を消した郷土の森の展望台

1997年 7月下旬の頃



鹿渡部落の外れに、郷土の森の入口があった。深い森を抜けると、展望台に達する。水田の側から、展望台の梯子を登ると、遙かに緑の山野を眺めることができた。この展望台は1997年春に完成し、約10年後に姿を消した。図はJR 栗山踏切付近より、展望台と背後の郷土の森を見たもの。遠方の家並は旭ヶ丘団地。

焚火(たきび) やタバコの不始末で、ボヤが起きたとの事で、郷土の森は閉鎖されたという。自然との共存は、難しい問題を抱えている。市民との協力が重要課題だ



元市立四街道中学校の高台に  
咲く桜

2001年4月初旬の頃

1999年に市立四街道中学校は、和良比のめいわ地区に移転した。校舎は重機により取り壊された。主のいない淋しい校庭に、桜が満開だ。グラウンドは階段を降りて行った。校舎のあった高台の桜が、土手に長い影を落している。図左に屋根付きの自転車置場が見える。桜と共に間もなく姿を消した。その後、桜の咲く高台にイトーヨーカドーさんが開店し、低いグラウンド側に家電量販店ヤマダ電機さんが来た。





### 赤いトタン屋根の床屋さん

1999年2月末の頃



山梨地区の赤いトタン屋根の家が男性専用の大野床屋さん。道路側の窓わくがシャレている。右側の竹やぶの近くに、今から400年前程昔のお墓が並んでいる。

歴史を実感する界限と言えよう。床屋さん前の梅が満開だ。この時期、周囲は甘い梅の香りに包まれる。床屋さん側から左に入ると、山梨古村に達する。



### 元入江パーマメント屋さんの洋館

1997年6月中旬の頃



四街道市和良比250番地付近に、昭和初期（今から約90年前）の洋館があった。戦時中、この洋館に陸軍野戦砲兵学校の校長、入江中将が住んでいた。従兵（将校に付き従い、身の廻りの世話をする兵士）を御供に、馬で野砲校に通っていたという。

洋館の道路側に半円形の窓が3つあるなど（通常は2つ）、中々立派なものだ。戦争がおわり、連合国軍最高司令官のマッカーサーの命令によって、高級軍人は総て公職より追放された。そこで、入江中将の奥さんがパーマメント屋さんを始めた。入江パーマメントがそれ。日本が独立し、様々な制限が解除され、入江パーマメントは閉店した。建物は、その後長く無人のままだった。すっかり老朽化したため、1998年暮れに取り壊された。軍都四街道を象徴する建物の1つが消え去ったと言えよう。

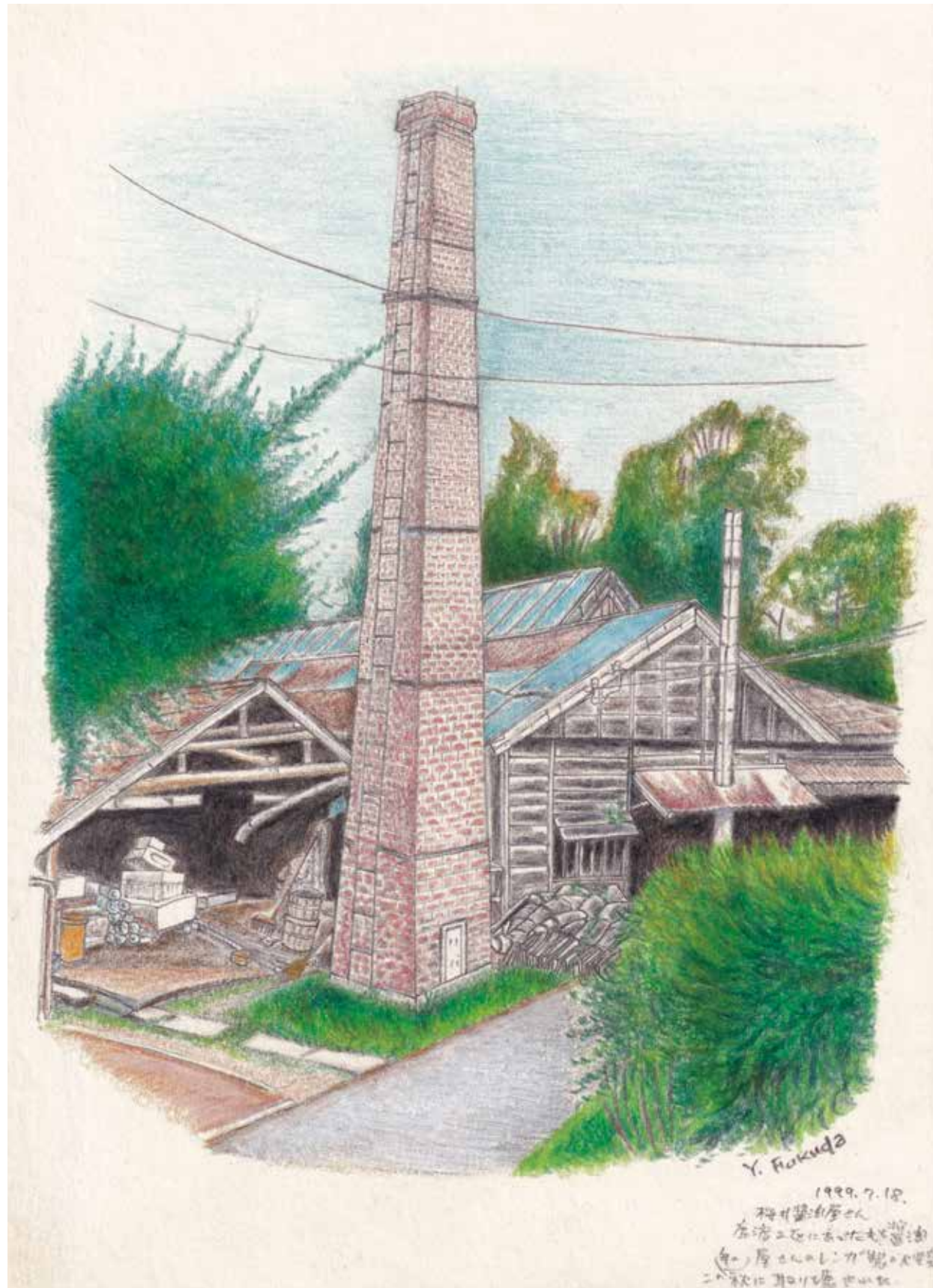
四街道 1 丁目、  
元立崎燃料店さん前の十字路

2002年 9月中旬の頃



図右のブロック塀は、立崎燃料店さんの前に当たる。いつも選挙のポスターが貼ってあった。現在全て撤去され、跡地に堀工業さんのビルが建っている。ミラーに映っているのは、次ページ(2004年元旦)で紹介する昭和の家。右端に2本のドラム缶が見える。左は片岡鳥獣店さんのあった、赤い昭和の家。隣の白い2階屋は守田さん。図中央の路地を奥に進むと、エノキ通りになる。





## 元立崎燃料店さん前の昭和の家

2004年元旦の頃



中央の古い民家は、昭和（今から70年近い昔）の家。ミラーに映っているのは、立崎燃料店さんと周囲のブロック塀。この家は最初油屋さんだったが、間もなくガラス屋さんにかわった。2本の錆びたドラム缶は、ガラス片の捨て場。家の前の道路を右に進むと、えのき通りが出る。この昭和の家は2009年11月末に取り壊され、駐車場になった。



## 四街道の名所、元桜井醤油屋さんのレンガ製の煙突

1999年7月中旬の頃



鹿渡地区にあった桜井醤油屋さんのレンガ製の煙突は、今から100年以上前の大正時代に造られた。高さ30メートルほどあった。関東大震災でも倒れることはなかったという。戦前、軍都四街道には、各種の陸軍の施設があり、5,000名以上の将兵が軍務に励んでいた。桜井醤油屋さんは、そこへ製品を納入していた。品評会で、日本一の醤油に選ばれたことがある。このレンガ製の煙突は、四街道の名所の1つであったが、1999年秋に取り壊されてしまった。背後の建物は醤油の醸造所。醤油を入れる1升ビンが見える。この建物も解体され、跡地は広い駐車場になった。





### 姿を消した理髪店ラビットさん

2005年9月下旬の頃

JR 四街道駅南口前の大通り潤生堂蜂谷  
医院さんの近くに、ラビットという名前の  
理髪店さんがあった。店は男性専用。  
1,200 円で髪を洗い、ヒゲまで剃ってく  
れた。今から4年ほど前(2019年)に、  
閉店した。建物は取り壊され、令和の  
ビルにかわった。現在、進学教室になっ  
ている。図右の木立ちは蜂谷医院さん  
の敷地。蜜蜂(ミツバチ)が看板になっ  
ている。この建物も大きく様変わりした。



Fukuda Yoshio

## 緑豊かな四街道の住宅街

2011年8月末の頃



四街道1丁目15番地付近。小さな路地の両側は、濃い緑の木立で彩られている。2020年になって、図左側の広い駐車場に、アイアイという名前の保育園が開園した。赤い帽子を被った園児達の元気な声が聞こえる。図中央の道をまっすぐ奥に進むと、広い道路に出る。その左遠方に、津之守通りの花島薬局が見えて来る。この花島薬局は間もなく閉店した。筆者は以前、花島薬局で愛犬のダニ駆虫剤を購入したことがある。懐かしい記憶。



## 和良比地区にある市立四和小学校の歩道橋型の連絡路

2005年8月中旬の頃



市立四和小学校では、近くの体育館に行くために、公道を横切る連絡路が渡されている。それは屋根付きの歩道橋と呼んでも良い。図の右側に体育館がある。この様な型式を持つ学校は、全国的にも珍しいと言う。筆者も許可を得て、この連絡路を渡ったが、緑の多い美しい眺めだった。

JR 四街道駅南口近くの  
懐かしい昭和の家

1997年6月上旬の頃

JR 四街道駅南口を出ると、正面に3階建ての大きな自転車置場が見える。これは南口第2駐輪場。その近くに武内ガラス店さんがあった。青いトタン張りの昭和の家。店の前に缶ジュースの自販機がずらりと並んでいた。ガラス店の仕事場は1階、2階は住まいだった。その後、駐輪場の前に丈の高いマンションが建てられ、武内ガラス店さんも、平屋のプレハブに変わった。このプレハブはガラスの仕事場専用。それは2007年頃のことだ。図は懐かしい昭和の家と南口風景





### 懐かしい川口屋文具店さん

1997年12月上旬の頃



津之守通りの藤川自転車屋さんの向かい側に、川口屋文具店さんがあった。筆者は中学生時代、その店でノートや鉛筆を購入していた。店は昭和25年(1950年)に開店したという。2009年1月中旬、不慮の火災により全焼したが、その年の秋に店を再開した。図の右側は護国神社前の広場。毎年この広場で、4区の夏祭が盛大に行われる。



### 建物の谷間から、和良比の住宅街を望む

2011年1月下旬の頃



市立四和小学校の体育館左側に、急な坂道がある。これは真坂(まさか)と呼ばれている。四街道市が誕生する今から40年ほど以前(1980年代)、真坂左側の丘陵は、大規模な造成工事が行われ、住宅地になった。真坂の下り口左側に、マンションがある。和良比222番地付近。反対側の金網は駐車場。この谷間にチラリと住宅街が見える。そこは以前、水田だった。四街道では珍しい眺め。背景の竹やぶ前の道を左に進むと、御屋敷橋に出る。



### 中三角踏切付近に残っていた 昭和の家

1999年11月上旬の頃

中三角踏切（人・自転車専用の踏切）を渡り、十字路に向かって進むと、左側に大橋家の平屋が見えて来る。人が住まなくなって久しい。昭和の面影を色濃く残す家。断熱材の倉庫として活用されていた。

時々自動車が来て、断熱材を運んでいた。雨が降って間もなくの頃だったと思う。水溜りに自動車がくっきり映っている。最近、家は取り壊され、跡地にアパートが建った。左端にチラリと見えるのは、小島さん宅。





### 枝が複雑に絡み合う生垣と昭和の家

2011年10月中旬の頃

道路に面している生垣の枝は、まるで迷路のようだ。描くのに大変苦労した。背後の瓦屋根の家は、昭和の建物。ミラーに映っているのは、下志津新田の富沢工務店さんの外壁。この富沢工務店さんは市立四街道小学校大日分校を建てた。それは今から72年前(1951年)のことだ。現在、市立大日小学校になっている。富沢工務店さん横の小道を直進すると、市立四街道小学校の裏門に達する。

生垣沿いに右に歩を進めると、愛国学園大学のグラウンド、四街道公民館が見えて来る。



### 小沢酒店さんの敷地にあった懐かしい戦前の洋館

2006年7月上旬の頃

鹿渡地区に、小沢酒店さんがある。昭和27年(1952年)から営業している。小沢酒店さんの広い敷地に、立派な洋館が建っていた。前面にブドウ棚があり、夏の強い日射しを遮っている。周囲に酒ビンを入れるプラスチック製のケースが積んである。この洋館は間もなく姿を消し、平成の家にかわった。図左手前に犬小屋が見える。和風の建物と洋館の組み合わせは、四街道独特の建築様式だと言われている。筆者の記憶では1960年代の頃、四街道には和風の建物と洋館の組み合わせが30軒近くあった。四街道の誇る文化の1つ。現在ほんの数軒残るのみ。ひどく懐かしい風景だった。



### 鹿渡の焼肉店アリラン界限

1999年9月上旬の頃

図の右側に、焼肉店アリランさんの大きな看板が見える。ここでは焼肉の他に、寿司も提供していた。筆者もこの店で同窓会を開いたことがある。隣のヤマザキパンの看板前は、あびこ酒店さん。2010年2月中旬の頃、八街に移転したという。現在、アリランの駐車場になっている。坂道を手前に進みガードを超えると、その先に中央公園が見えて来る。。



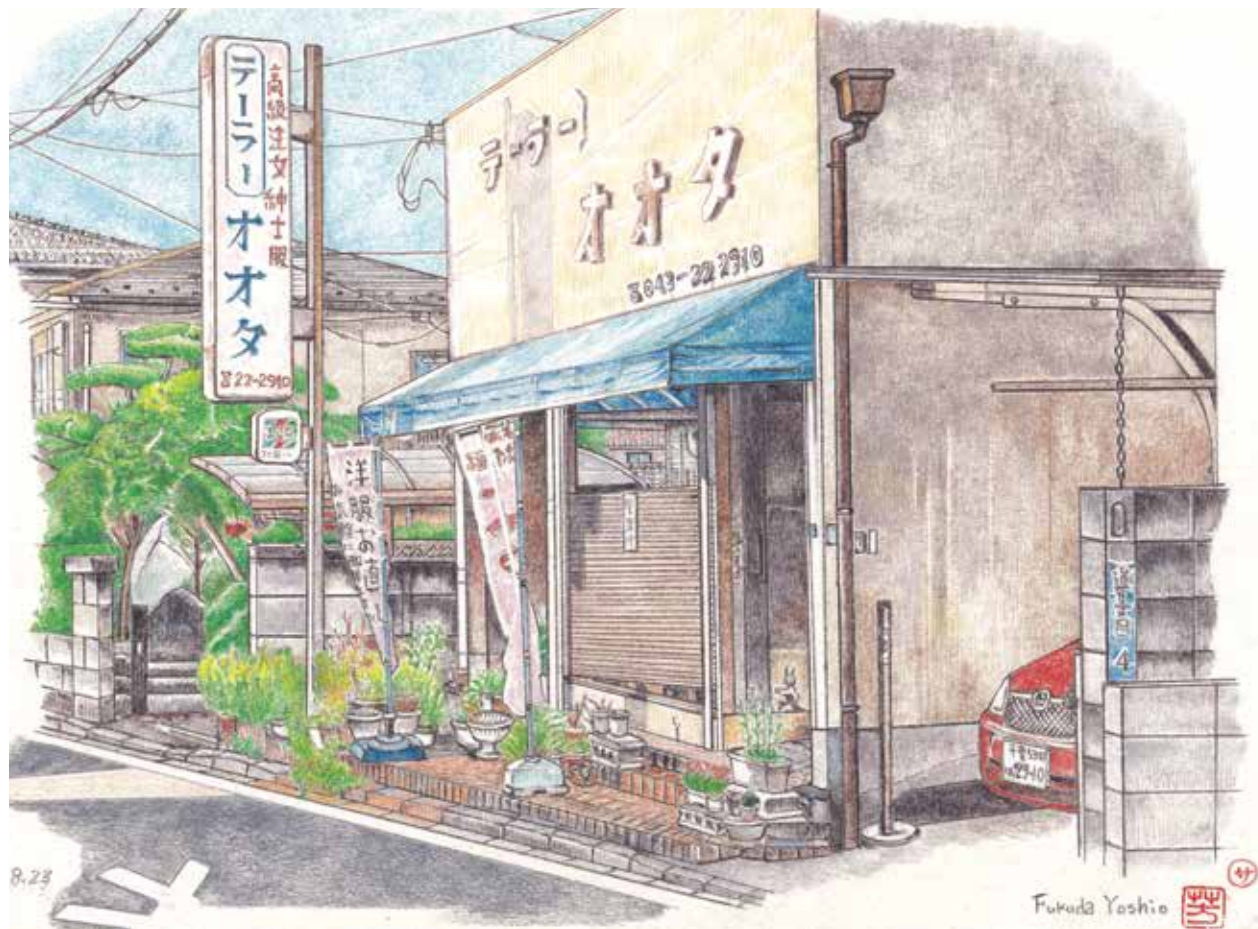
## 懐かしいテーラーオオタさんの店

2011年8月下旬の頃



四街道1丁目にあるブルーのノッポビル（女性専用のマンション）横の路地を進むと、右側にテーラーオオタさんの2階屋が見えてくる。いつも屋上に洗濯物を干している。

店頭には草花の鉢が並べられ、色どり豊かだった。この店で背広を注文した友人に話を聞くと、「なかなか着心地の良い仕立て、気に入っています」という返事を頂いたことがある。御主人が他界したため、現在閉店している。



## イトーヨーカドーの向かい側にあった川口屋文具店さん

2011年10月末の頃



現イトーヨーカドーの向かい側、坂道の下り口付近に、川口屋文具店さんがあった。2階建ての店で、大きなガラス窓に松の枝が映っていた。

それは芝居の緞帳（どんちょう）を見ている様な感じだった。店の右端にある“よつカード”という幟も、どこか懐かしい。ポイントを集めると、値引きしてくれたものだ。左端の木組みは御茶屋さん、右前方に中央測量さんの建物が見える。川口屋文具店さんは2016年に取り壊され、跡地は駐車場になった。

護国神社の近くにある川口屋文具店さんは、妹さんの家だという。そう言えば、店舗の様子がずい分似ている。





## 1997年当時の 市立四街道中学校の正門

1997年5月下旬の頃

市立四街道中学校は昭和35年(1960年)に開校した。以前、千代田中と称した建物だ。それは軍隊の木造兵舎を転用したものだった。現在のイトーヨーカドーさんのある敷地に、昭和37年(1962年)に入って、初めて鉄筋コンクリート造りの本格的な校舎が完成した。図の正門後方に、太い幹が左に大きく曲った松が見える。これは嵐で損傷したものだ。この松は、中学校が和良比のめいわ地区に移転した際、一緒に移植された。

嵐に負けず元気に育って欲しいという願いが込められている。黒い乗用車の停まっている後方の建物は、職員室になっている。懐かしい風景。



1997.5.25

の二年生の時に書いた  
作業が、女学生。左に松、右に校舎の石壁。和良比の新校舎に移転した。

Fukuda Yoshio





#### 福田 芳生氏のプロフィール

1941年4月、四街道に生まれる。都内の医科大学で博士号を取得し、県衛生研究所に勤務する。動物の進化、種の多様性、河川的环境汚染と水棲生物について、研究を重ねる。動物の病理学・古生物学に関する専門書30冊以上を著す。その間、早稲田大学講師を兼務。退職後、色鉛筆画家として活躍。現在に至る。



<表紙絵 解説>

#### 1960年代の市立四街道小学校(四校)

1961年12月中旬の頃

今までの木造校舎が手狭になったため、四街道に相応しい小学校を建てることになった。図の木造2階建て、赤いトタン屋根の校舎は、1938年(昭和13年)秋に完成した。校舎の中央を高くして、生徒は常に上を目指しなさいと言う訳だ。戦時中、小学校は国民学校と呼ばれた。

テレビドラマで人気を博した大女優の故市原悦子さんは、市立四街道小学校の卒業生だ。彼女は千葉市の空襲から逃れるため、内黒田に疎開した。数キロ離れた小学校まで毎日裸足で通ったという。冬の暖房は薪ストーブだった。授業の開始は、大きな太鼓をドンドンと打ち鳴らして知らせた。

四街道が市になると共に鉄筋2階建ての立派な校舎になった。建物の中央を高くすることは廃止された。開校記念祭の会場で、卒業生代表が、以前の四街道小学校の色鉛筆画をスライドにして上映した。それを観た私の孫が「あ!!おじいちゃんの絵だ」、「おじいちゃんの絵だ」と大喜びしたという。この絵は、色鉛筆画を始めて間もない頃の作品。

#### まちの記憶

色鉛筆で描いた四街道

第三集

絵・文 福田芳生

2025年6月2日発行

発行者

四街道市(みんなで課)

〒284-8555 千葉県四街道市鹿渡無番地

電話 043-421-2111(代表)

043-420-7525(みんなで課)

許可なく本書の複製、転載などを禁止します。